

# オオバナノエンレイソウ種子の発芽促進および種子の貯蔵

環境資源学専攻 森林緑地管理学講座 花卉・緑地計画学研究室  
斎藤達也

## (背景と目的)

オオバナノエンレイソウ (*Trillium camschatcense*) は、ユリ科エンレイソウ属の多年草で、日本では北海道と本州北部の低地落葉広葉樹林の林床に主に生育している。春先のまだ明るい林内に広がる大きな群落は、北方地域の特徴的な自然景観といえる。しかし、オオバナノエンレイソウの生育地は開拓や開発によって減少しつつある。繁殖様式が種子繁殖のみであるオオバナノエンレイソウの個体群を創出して、保全し、利用しようとする場合には、種子発芽に関する情報を蓄積することが重要である。そこで、本研究では、オオバナノエンレイソウの種子散布から出芽までの期間の短縮と種子の貯蔵の可能性を検討した。

## (方法)

### 1) 播種から発根までの期間の短縮

予備実験において、採取した直後の種子を様々な温度で培養した結果、播種から約 270 日後に 90%以上の発根率を示した。本実験では、発根までのさらなる期間短縮を目的として、発根実験を行った。

### 2) 発根から出芽までの期間の短縮

予備実験において、発根した種子を様々な温度で培養した結果、移植から約 210 日後に 80%以上の出芽率を示した。本実験では、発根種子が出芽するまでのさらなる期間短縮を目的として出芽実験を行った。

### 3) 種子の貯蔵

採取直後の種子を、乾燥 5°C で 2, 4, 8 週間、湿潤 5°C で 1, 3, 8 ヶ月間、そして、乾燥 -20°C で 1, 3, 8 ヶ月間貯蔵し、その後発根率を調査した。

## (結果及び考察)

### 1) 播種から発根までの期間の短縮

野外では、種子散布から発根まで約 400 日必要とするが、適切な温度処理によって播種後約 210 日で 88%の発根率を得ることができた。

### 2) 発根から出芽までの期間の短縮

野外では、発根から出芽まで約 240 日必要とするが、発根種子に適切な温度処理を与えることで、発根種子の移植後約 150 日で 71%の出芽率を示した。

### 3) 種子の貯蔵

乾燥 5°C で 8 週間、および湿潤 5°C で 8 ヶ月間貯蔵した種子は、それぞれ 88%、96%の最終発根率を示した。一方、乾燥 -20°C で貯蔵した種子は、貯蔵後 10°C または 25°C に移した後 90%以上が腐敗した。